

密蔵院発露懺悔文

われらさんげ　むし　このか  
我等懺悔す　無始より来た

せむじゆじゆ　まじ　ごれご　ひへ  
妄想に纏われて　衆罪を造る

しんく　い　じゆ　ごね　てんぞじゆ  
身口意の業　常に顛倒して

あぢま　むじゆふぜん　じゆ　あか  
誤って　無量不善の業を犯す

ちたばい　おけんりん　せ　じゆ　あか  
珍財を憒吝して　施を行ぜず

じゆん　まか　ほうじゆ　かい　じ  
意に任せて　放逸にして　戒を持たず

しばしばふんこ　お　ごんくへ  
屢々忿怒を起して　忍辱ならず

おお　けだい　しぢゆ　じゆじゆ  
多く懈怠を生じて　精進ならず

しんい　さんぢん　みぜん  
心意　散乱して　坐禅せず

じゆんじゆ　いほこ　え　ごせ  
実相に　違背して　慧を修せず

つね　かく　じゆ　るくべ　ぎぢゆ　たい  
恒に　是の如くの六度の行を退して

かえつ　るでんさんず　じゆ　じゆ  
還て　流転三途の業を作る

な　びく　か　がらん　けが  
名を比丘に返して　伽藍を穢し

かたち　しやま　ひ　しんせ　じゆ  
形を沙門に比して　信施を受く

じゆ　じゆん　かごぼん　わす　じ  
受くる所の戒品は　忘れて持せず

学がくすす可すきす律り儀ぎは 廃はいして好このむなこと無なし

諸しよ仏ぶつの厭えん患のしたもつ所ところを慚はじず 菩ぼ薩ざつの苦く惱のうする所ところを畏おそれず

遊ゆ戯ぎし笑ご語りして 徒いたに年としを送おくり

諂てん詐のう偽そして 空むなしく口ひを過すぐ

善ぜん友ゆうに随したがわずして 癡ち人にんに親したしみ

善ぜん根こんを勤こめずして 悪あく行ぎやうを営いむ

利り養やうを得えんと欲ほつしては 自じ徳とくを讚さんじ

勝しょう徳とくの者ものを見ては 嫉しつ妬とを懷いだく

卑ひ賤せんの人ひとを見ては 僞ぎ慢まんを生しじ

富ふ饒じやうの所ところを聞きいては 希け望ぼうを起おす

貧びん乏ぼくの類るいを聞きいては 常じやうに厭あ離りす

故こらに殺ころし 誤あやまりして殺ころす有う情じやうの命いのち

願あわに取とり 密ひそかに取とる他た人にんの財ざい

触ふれても触ふれずしても犯おかす 非ひ梵ぼんの行ぎやう

口く四し意い三さん 互たがいに相あ互たがいに相あ続そつぞくして

仏ほとけを觀かん念ねんする時ときは攀へん縁ねんを発おこし 經きやうを誦じゆく誦じゆくする時ときは又また句ごを錯あやます

若し善根を作せば 有相に住し

還て 輪廻生死の因と成る

行住坐臥 知ると知らざると 犯す所の是の如くの無量の罪

今三宝に対して皆な発露したてまつる

慈悲哀慈して 消除せしめたまえ

皆な 悉く発露し 尽く懺悔したてまつる

乃至 法界の諸の衆生 二業所作の是の凡々の罪

我皆な相代わって 尽く懺悔したてまつる

更に亦 其の報を受け令められ